

RAKUGO THE FUTURE

JAPANESE TRADITIONAL
ENTERTAINMENT

ラクゴ・ザ・フューチャー

第五十回 ..

50回記念スペシャル・

田中啓文に1000の質問

文..田中啓文

とうとうこのラクゴ・ザ・フューチャーも50回である。

最初は、落語とSFについて書いてくれといわれて、そのときそのときのネタをなんとかSFと落語にこじつけようと毎回いろいろ苦労した記憶があるが、あるとき悟りを得て、落語にもSFにも何の関係もないネタをどんどん押し進めることにしたのである。その悟りとは、つまり「どーせ誰も読んでへんでこんなもん」というものであり、それによつて私は成仏することができたのだ。しかし、その悟りを得たのは、けっこう早い段階だったかも。以降は、ただひたすらだらだらと牛のよだれのようにネタを垂れ流しているわけである。そんなラクゴ・ザ・フューチャーだが、50回記念の今回ぐらい、特別なことをしてもいいだろう、というわけで、さつそくお届けしましょう。田中啓文に1000の質問である。これで、田中啓文の真の姿に迫ることができたものと自負している。

・田中啓文に1000の質問

第一問・あなたは田中啓文ですか。

答・はい。

第二問・ほんとに田中啓文ですか。

答・はい。

第三問・ほんとにほんとに田中啓文ですか。

答・はい。

第四問・棚化広不美じゃなくて？

答・はい。

第五問・店蚊洋富実でもなくて？

答・はい。

第六問・生まれはいつですか。

答・昭和37年11月9日です。

第七問・ほんとですか。

答・はい。

第八問・ほんとにほんとですか。

答・はい。

第九問・昭和38年6月3日じゃなくて？

答・はい。

第十問・昭和20年3月11日でもなくて？

答・はい。

第十一問・昭和62年1月1日でもなくて？

答・はい。

第十二問・生まれた場所はどこですか。

答・大阪です。

第十三問・大阪のどこですか。

答・知りません。どこかの病院です。

第十四問・なぜ知らないんですか。

答・知らないから知らないんです。

第十五問・そんなはずはないでしょう。

答・いえ、ほんとに知りません。

第十六問・嘘をついてませんか。

答・ついてません。

第十七問・ほんとですか。

答・はい。

第十八問・ほんとにほんとですか。

答・はい。

第十九問・血液型は何ですか。

答・A型です。

第二十問・ほんとですか。

答・はい。

第二十一問・ほんとにほんとですか。

答・たぶん。

第二十二問・たぶんじゃ困るんですよ。だいじな問題ですから。血液型はA型ですか。

答・はい。

第二十三問・絶対まちがいありませんか。

答・はい。

第二十四問・ちがってたら死にますか。

答・いいえ。

第二十五問・どうしてですか。絶対まちがいなんなら、いいじゃないですか。

答・そりやまあそうだけど、世の中絶対ということとは……。

第二十六問・ありえないというんですか。つまり、あなたはA型じゃないんですね。

答・いえ、A型です。

第二十七問・ちがってたら死にますね。

答・いえ……はい。

第二十八問・どっちなんですか。

答・死にます。

第二十九問・仕事はなんですか。

答・作家です。

第三十問・何作家ですか。

答・何作家とはどういうことです。

第三十一問・放送作家とか陶芸作家とか。

答・ああ、小説家です。

第三十二問・ほんとですか。

答・はい。

第三十三問・ほんとにほんとですか。

答・はい。

第三十四問・自分が「小説家」という肩書きに値するようなものを書いているとおもっているのですね。へー。

答・いや……そういう意味では小説家じゃないかもしれない。

第三十五問・じゃあ、小説家じゃないんですね。

答・あ、はい……。

第三十六問・じゃあ、仕事はなんなんですか。

答・えーと……。

第三十七問・自分の仕事もわからないんですか。

答・わかってますよ。

第三十八問・それじゃ、答えられますよね。

答・まあね。

第三十九問・まあねとはなんです。大事な質問なんですよ。

あなたの仕事はなんですか。

答・小説家を目指している人間です。

第四十問・「目指している」なんてのは職業とはいえせんよ。職業はなんなんですか。

答・じゃあ、小説家です。

第四十一問・さっきはちがうといったじゃないですか。

答・自信がないもんだから……。でも、まあ、そうですね。

何かとあらたまって問われると、小説家としか言いようがないですから。

第四十二問・言いようがないから、なんて消極的な言い方は納得できませんね。あなたが「俺は。。。だっ」と自信を

もって言い切れる仕事はなんですか。

答・小説家です。

第四十三問・ほんとですか。

答・……はい。

第四十四問・今、一瞬、答が遅れましたね。

答・そんなことはありませんよ。

第四十五問・ほんとは自分は小説家じゃないと思ってるんじゃないですか。

答・いえ……小説家です。

第四十六問・やっぱり答が遅れましたね。

答・遅れてないってば。

第四十七問・まあいいでしょう。職業は小説家、と。趣味はなんですか。

答・さあ……いろいろあるけど、趣味といえるものがあるかどうか……。

第四十八問・趣味はないんですね。

答・だから、いろいろあるけど、って言うてるじゃないですか。

第四十九問・それなら答えなさいよ。

答・趣味ねえ……趣味……。

第五十問・やっぱりないんだ。

答・あるってば。

第五十一問・じゃあ早く答えてよ。こっちも時間ないんだから。あと九百四十九問あるんだから。

答・趣味は、料理です。

第五十二問・へー、カレーのレトルトを温めたり、インスタントラーメン作ったり、スパゲティ茹でたりするのが、「料理」なわけね。へー。

答・ほかにもいろいろ作ってるよ。

第五十三問・たとえば？

答・野菜炒めとかシチューとかソーメンとか味噌汁とか煮物とか。
第五十四問・そんなものが「趣味の料理」ですかね。男が「趣味は料理です」と言ったら、うどんを手打ちしたり、スパイスからカレーを作ったり、燻製をしたり、自家製チャーシューを作ったり……とかいうやつを、みんな思い浮かべられると思いますけどね。

答・いや……そういうのとはちがうんです。

第五十五問・うちがうんです。

答・私の場合、毎日、家で食べる料理を作ってるだけなんで、そういった大がかりなやつはやったことなくて……。

第五十六問・それなら、単に、日々の家庭料理を作っているだけじゃないですか。一家の主婦は、みんな、毎日そうやってますよ。あの人たちは趣味人ですか。

答・いや……そういうわけじゃ……。でも、私は男性だし……。

第五十七問・女性が料理したら労働で、男性がしたら趣味ですか。あなたは女性差別主義者ですか。

答・ちがうつ。

第五十八問・でも、そうじゃないですか。

答・だからちがうつて……。

第五十九問・やーいやーい、女性差別主義者。やーいやーい、芋のへた。

答・ちがうつて言ってるだろ。

第六十問・じゃあ、料理は趣味かどうか答えてください。

答・趣味じゃありません。

第六十一問・ほー、ちがうんですか。

答・はい。

第六十二問・趣味はなんですか。

答・サックスを吹くことです。

第六十三問・うまいんですか。

答・いえ。

第六十四問・うまくないのに、「サックスを吹くのが趣味」と堂々と主張するんですね。

答・いや、べつに主張してるわけでは……。

第六十五問・ふつつ、ある程度の技量がないと、趣味とはいませんよね。うまいんですか。

答・いや……全然。

第六十六問・それでも趣味と言い張るんですね。

答・だって趣味は趣味だもん。下手の横好きだって、趣味といえるだろ。

第六十七問・そうでしょうか。じゃあ、今日、生まれてはじめてサックスをはじめた人が、口にくわえて吹いても音が出なかった……というような場合でも、その人は「サックスが趣味です」と言ってもいいんですかね。

答・そりやむりでしよう。

第六十八問・ならば、あなたの場合はどうなんですか。そういう人に比べると、ずっとずっとうまいんですか。

答・いえ……。

第六十九問・サックスは趣味ですか。

答・趣味じゃありません。

第七十問・ほー、ちがうんですか。

答・はい。

第七十一問・趣味はなんですか。

答・落語を聞くことです。

第七十二問・年に何回ぐらい聞きにいきますか。

答・そうですね……最近は、年に三回ぐらいかな。いや、ちよつと、ほら、忙しいから……。

第七十三問・べつに言い訳してもらいたいわけじゃないんですよ。でも、そういうことを付け加えるということは、自分

でも、年に三回は少ないと思っっているわけですよ。

答・うーん……そうですね……。

第七十四問・それなのに、落語が趣味と偉そうに言うわけですね。

答・偉そうに言ってるわけじゃないですよ。

第七十五問・普通、落語を聞くのが趣味って言ったら、月に五、六回は聞きにいつてる人のことを言うんじゃないでしょうか。そういう人、いっぱいいますよ。そんな人たちと比べて、年に三回でも、落語が趣味だと言うんですね。

答・はあ……。

第七十六問・落語は趣味ですか。

答・趣味じゃありません。

第七十七問・あなたの趣味はなんですか。

答・……無趣味です。

第七十八問・では、質問を変えましょう。好きな食べ物はなんですか。

答・いろいろありますが……。

第七十九問・はい、わかりました。では次の質問に行きましょうか。

答・いや、まだ答えてないんですけど。

第八十問・答えたでしょう、いろいろある、と。

答・それは前置きであって……。

第八十一問・前置きでもなんでも、私にはそれで十分な答です。それともなんですか。どうしても好きな食べ物について詳しく具体的に答えたいというのですか。

答・いや、そういうわけでも……。

第八十二問・じゃあ、いろいろある、でいいじゃありませんか。

答・うーん……。

第八十三問・いやなんですか。

答・うーん……。

第八十四問・はつきりしなさい。そういううじうじした態度が作品にも反映して、あなたの小説は売れないんですよ。

答・そうかな。

第八十五問・そうです。

答・今、質問と答と逆になってない？

第八十六問・なってますよ。それがどうしたんだよ。

答・いや……べつに……。

第八十七問・話を戻します。好きな食べ物について詳しく語りたいですか。

答・え？ は、はい。

第八十八問・そこまで言うということは、その答は、よほど我々を驚かせてくれるか、すごい感動を与えてくれるようなすばらしいものなのでしょうね。お好み焼き、とか、焼きギョウザ、とか、そんなありふれた答のほずがないですね。

答・い、いや……あのなあ。

第八十九問・では、答をどうぞ。

答・……いろいろある、ということ。

第九十問・最初と同じじゃないですか。手間かけやがって、ほんとに。

答・あのさあ、ちょっと質問したいんだけど。

第九十一問・質問はこっちの役目です。

答・いや、それはわかってるんだけど。

第九十二問・わかってたら言うな。

答・そこをあえてききたいんだよ。こんな質問してどうするの。

第九十三問・どうするってどういう意味だ。

答・何のためにやってるのってこと。

第九十四問・何のためでもいいじゃないですか。あなたはあらゆることに意味とか理由を求めるタイプですか。

答・そんなことないけど……。

第九十五問・じゃあ、オツケーということで。質問に戻っていいですか。

答・はい。

第九十六問・好きな女性のタイプは。

答・え？

第九十七問・芸能人でいうと？

答・あ、あの……。

第九十八問・痩せ形とぽっちゃりでは？

答・うーんとね……。

第九十九問・二重まぶたと一重まぶたでは？

答・だから、答を聞いてから次の質問しろよ。

第一百問・別にいいんです。「1000の質問」なんだから。

答はべつにいらainです。

答・それじゃ、私はいらainじゃないか。

第一百一問・平たく言えば、そうですね。では、次の質問。今、恋をしていますか。

答・……。

第一百二問・中東情勢についてどう思いますか。

答・……。

第一百三問・世界は滅びると思いますか。

答・……。

第一百四問・アップルパイとレモンパイ、どちらがお好きですか。

答・……。

第一百五問・日本経済は回復すると思いますか。

答・……。

第一百六問・ガイナックスは儲かっていると思いますか。

答・……………。

第百七問・ブルースはアフリカで生まれたと思いますか。

答・……………。

第百八問・人間は死んだら無になると思いますか。

答・……………。

第百九問・髪を洗ったあとリンスをしますか。

答・……………。

第百十問・どうして答えないんですか。

答・……………。

第百十一問・答えるのがいやなんですか。

答・……………。

第百十二問・そうなんですか。

答・……………。

第百十三問・そうなんです。

答・……………。

第百九十問・今後の予定を教えてください。

答・こ、こらっ、八百八十七問飛んだじゃないかっ。

第百九十一問・それがどうしたというんですか。

答・どうしたって……いくらなんでも飛ばしすぎだろ。

第百九十二問・じゃあ、戻りましょうか。

答・いや……それもまた……。

第百九十三問・このままでいいんじゃないですか。

答・そ、そうだな……そうだ。

第百九十四問・だいたい、こんなものいまだに読んでる人がいると思いますか。

答・うーん……言われてみれば、たぶん途中で読むのをやめてるわな、ふつつ。

第百九十五問・だったら何をしてもいいじゃないですか。

答・それもそうだ。

第九百九十六問・小学校の林間学校の思い出を教えてください。
答・そんな質問、もっと早くにしとけよ。もうそろそろ終わりだぞ。

第九百九十七問・子供の頃、近所に住んでいた村田さんのことを教えてください。

答・知らんわ、そんなやつ。もう終わるんだから、もっとこう、究極の質問というかなあ……。

第九百九十八問・牛乳を飲むと下痢をしますか。

答・するよ。するけど、そろそろ……。

第九百九十九問・下痢便を飲むと牛乳を出しますか。

答・出すか、そんなもんつ。おい、次で千問目なんだからさ……。

第千問・納豆は好きですか。

答・好きだよ。でも、これが千問目かよ。

第千一問・くさやの干物は？

答・おい、千問で終わりじゃないのか。

第千二問・鮎寿司は？

答・超過してるってば。

第千三問・ブルーチーズは？

答・聞けよ、こいつ！

第千二百八問・臭い靴下は？

答・また飛ぶんかいつ。

(了)